

第5期科学技術基本計画のフォローアップについて

○ 文部科学省における第5期科学技術基本計画フォローアップ対応状況

- 第2章
第3章
- 「研究開発計画」を策定し、当該計画に則って研究計画・評価分科会で、文部科学省における個別の研究開発課題を各課題の進捗状況に合わせて評価
- 第4章
第5章
第6章
第7章
- 基本計画の政策—施策体系を「見える化」した俯瞰マップ、指標等をもとに、総合政策特別委員会において、文部科学省における進捗状況を把握・分析
⇒8月29日に中間とりまとめ

(参考：第5期基本計画の構成)

- 第1章 基本的考え方
第2章 未来の産業構造と社会変革に向けた新たな価値創出の取組
第3章 経済・社会的課題への対応
第4章 科学技術イノベーションの基盤的な力の強化
第5章 イノベーション創出に向けた人材、知、資金の好循環システムの構築
第6章 科学技術イノベーションと社会との関係深化
第7章 科学技術イノベーションの推進機能の強化

○ 中間とりまとめを踏まえた文部科学省における今後の検討の方向性

総合政策特別委員会でとりまとめた、「今後必要と考えられる全体的な視点」に基づいて、今後さらに検討が必要な論点について来年の1月を目途に整理

(今後必要と考えられる全体的な視点)

- 大学・国立研究開発法人を所管し、研究開発の現場と近い文部科学省は、現場立脚の課題認識の下、産業界・アカデミアをはじめとする関係者と共有すべき技術・研究ビジョンを示していくことが重要ではないか。
- 新興・融合領域を発見し、将来の重要課題や研究領域を先取りして、迅速に文科省の政策へのフィードバックを行うべきではないか。
- 必要な研究開発投資を確保するとともに、官民ともに研究開発投資費が限られている中、好事例を基に考えられる戦略は何か。
- その際、大学改革等の動きを踏まえながら、文部科学省として推進すべき方策を検討すべきではないか。なお、大学における科学技術のアウトプットを担う経営力を強化することも重要。

○ 検討のポイント

- ・現場立脚の課題認識の下、文部科学省だからこそ提案すべき方策を提案
- ・従来の総花的・延長線上（個別最適化）の検討に終始しないため、各局各課の壁を排して、ワクワクするような面白い、前向きな提案をすることに留意

文部科学省の科学技術政策の今後の方向性の検討に当たって **特に議論が必要な論点（案）**

前提となる背景

- 研究成果が社会実装へと至るまでの知の移転プロセスは多様化し、そのスピードも加速。人々の生き方や価値観も多様化し、社会像も必ずしも一つではない。こうした社会の変化に合わせ、柔軟性と変化に耐える力を持つことが重要となっている。
- ターゲットイヤー（目標年）は、次の科学技術基本計画の期間（2021年～2026年）を基本とするが、100年先（2121年）、15年先（2036年）を見据えた長期的な視点、中長期的な視点、短期的な視点の3つの視点をもつとともに、社会の変化に合わせて柔軟かつ即時的に対応できる計画とすることを旨とする。
- 本検討を行う際には、定量的なエビデンスとともに、絶えず変化している状況に対応するため、第一線での率直な声（現場のエビデンス）を基に検討を進める。

✓ **グローバル化が浸透して地球規模課題（SDGs）に直面し、バーチャルとリアルの融合（Society 5.0、データ覇権争い）が進む中、科学技術が果たすべき役割とは何か。また、今後訪れる社会的変化は何か**

✓ **日本の科学技術システムについて、何を目指しどうすべきか。また、文部科学省はどのような役割を果たすべきか。それらの検討の際、単一のシステムではなく、多種多様な研究開発・イノベーションに各々最適化したシステムが必要ではないか。**

- 人間の可能性を拓げるような、人間の幸福感を実現するための（Human-centric）科学技術を目指すべきではないか。
- 一つのクリティカルな発見がイノベーションをもたらす一点突破型のイノベーション、複数の研究開発成果を組み合わせることによってもたらされるイノベーション等、様々な様態に最適なシステムの構築が必要なのではないか。

✓ **世界で GAME CHANGE が常に狙われている今、新たな発想を生み出し破壊的イノベーションの源泉である基礎研究こそが国力の源泉ではないか。**

- ✓ **科学技術による新たな価値の創造の担い手である人材の養成・供給が重要ではないか。特に、文理融合をはじめ、柔軟性を持ち、あらゆる変化に耐え得る力を持った人材が求められているのではないか**

- ✓ **複雑化、多様化する社会課題を抽出し、その解決を出発点としたバックキャスト型の視点を研究開発にどう取り入れるか。目指すべき社会像も一つではなく、また見通すことが難しくなっている今、バックキャストの在り方とはどういうものか**

- ✓ **その他、特に議論が必要な論点**